

西区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
西区写真展		西区写真展実行委員会			
事業目的	事業内容	活動指標	R3	R4	R5
西区に在住・在勤・在学する者が撮影した、西区内のお気に入りの場所・心に残る風景・地元自慢の行事など大好きな西区の魅力が表現されている写真を募集・展示することにより、わがまちの特性の再発見並びに区意識の高揚を図ることを目的とする。	西区在住・在勤・在学者から募集テーマに応じた西区の魅力が表現されている写真を募集し、応募作品のすべてを西区役所玄関ホールにて展示する。一般の部と高校生以下の部の2部門に分けて賞を設け、受賞作品は西区役所の他、阪堺電気軌道1001型電車(通称：堺トラム)車内にて展示する。	応募作品数 (応募人数)	90点 (90人)	73点 (73人)	74点 (74人)
		来場者アンケートによる満足度(「大変よかった」「良かった」の割合)	87%	90%	89.5%
①妥当性		②協働の視点		③インパクト	
○	暮らしのなかで区民が発見した様々な魅力あるシーンを写真作品として展示することで、区の魅力がPRすることができた。わがまちの特性の再発見並びに区意識の高揚が図られ、事業を実施する妥当性が高い。	○	テーマ設定など企画段階から区民が実行委員として参画しており、事業計画の検討や入賞作品の審査を行った。また事業の広報は地域住民が担った。行政は事務局としてサポートしており、区民と行政が協働で実施している事業である。	○	区役所の玄関ホールで応募全作品を展示することで、他の用件で区役所を訪れた方にも写真展を楽しんでいただけた。また、区外も走行する電車内で写真を展示することで、区外の利用者にも区の魅力がPRすることができた。
⑤自立発展性		④効率性			
△	予算や展示場所の確保等が難しく、区民が自立して取り組むことは困難であり、今後も行政と区民の協働実施が望ましい。	○	応募方法については、前年度に続き、電子申請システムの受付を行った。電子申請システムの受付が半数以上あり、応募者への通知や管理を効率的に行うことができた。		
総合評価					
開催時期を例年の3月から9月に変更したことで応募数の大幅な減少が危惧されたものの、実行委員(区民)による応募の呼びかけや早期の商業施設等へのポスター掲示等を行った結果、応募数は微増であった。見学者アンケートの「大変良かった」「良かった」の合計割合は89.5%であり、作品展としての満足度は高かったとみられる。					
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	今回で26回目となる西区写真展は、地域住民に定着し、毎年楽しみにしておられる方も多くいる。今回から時期を一新して9月開催としたことで、前回3月開催時と比較して春・夏の写真が大幅に増え、より彩りある写真展となった。近年応募数が減少傾向にあるものの、電子申請応募者のうち42%が新規応募者を占めたことから、一定数、新規開拓もできているとみられる。今後も9月開催を継続して時期の定着を図ると共に、実行委員や区民の意見、アンケートを踏まえながら、周知や応募時期、応募方法の見直しを進めることで、より多くの区民に参加してもらえる事業にしていきたい。				